

「令和6年度学校関係者評価委員会提言書」を受け次年度に向けた改善方策

世田谷区立二子玉川小学校
校長 今福 真和

令和6年度学校関係者評価委員会からの提言書に課題として指摘された内容について、それらへの対応と来年度の方針、方策を区の施策や本校から区に届け出た教育課程と関連させて以下のようにまとめました。

1、学習指導について

児童アンケートの設問項目「話し合い」「ICT活用」については90%前後の肯定的評価を維持している。「黒板・プリント」は下降しているが、教授的な学習体系の減少に伴っていることも考えられる。探究的学びを中心とした「児童が自ら学ぶ」授業への変革は確実に進んでいる。

保護者アンケートも同様の傾向を示しているが、児童よりも10%～20%低いことは、判断材料に乏しいことにも起因している。学校公開等において日々の探究的な学びの姿を発信していく。

○7年度は教科担任制を推進する。教科部会も定期的に実施し、系統的な指導方法も模索していく。校内研究では「探究的な学び」の実践をテーマに、設定された時間の多くを話し合いと実践の場とし、教員自身が探究的に研究を実践していく。

○教員による自主的なミニOJTは計画的に、意欲的に実践されている。短時間でも指導方法や教材教具、授業プランを共有し、日々の授業に取り入れている。継続する。

○観察授業、年次研修授業、分科会の提案授業をすべてオープン参加とし、教員同士が相互に授業を見合う機会をもつ。切磋琢磨し指導法の改善を図り授業力を向上させていく。

○二子玉川小独自のハンドサインによる意思表示、ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境整備を全校で実践する。児童が落ち着いて学びに向かう意欲を高める。

○世田谷区ICTインフルエンサーによるスキルアップ講習を定期的に実施する。ICT活用と同様に、手書きや板書などの学習方法も軽視することなく学習の基本として指導する。

○英語講師、ALT、英語支援員を配置し、英語をより実用的に学ぶ。

2、生活指導について

児童、保護者、地域アンケートは安定した内容を示している。「先生が注意する」項目は20%減と大幅に下降した。しかし評価委員会からのご指摘の通り「先生が子どもに指導する」ことから「子どもが自発的・主体的に成長する過程を支える指導」への変革について真摯に向き合わなければならない。本校には「二子玉川小学校4つ約束」という生活指導上の明確な指針がある。児童が自発的・主体的に「4つの約束」を意識して行動できるような声掛け、指導を確立していく。

- 「人に親切にする」「正直な心をもつ」「約束（ルール）を守る」「勉強（仕事）をがんばる」
以上の「二子玉川小4つの約束」を日常生活の行動指針として自ら実践し、振り返り、成長につなげていけるように指導する。
- 近年、東京都人権尊重教育推進校として実践してきた取組の成果として、学校全体としてお互いを大切にしあう風土が確実に定着している。さらにインクルーシブ教育を推進し、すべての子どもが学校生活において自分らしく仲間と共に学校生活を送ることができるように努める。
- 児童の気持ちに寄り添うとともに、いじめなど社会的に許されない行為については毅然とした態度で指導を行う。
- 「二子玉川クリーンタウン作戦」（地域清掃活動）など、二子玉川にある学校、地域、企業、行政、スポーツ団体が協働する活動を通して、社会に貢献する意識や、地球の一員として行動するという視点をもった子どもを育てる。
- 令和6年度の校長室を活用した校内ホットルームの活用により、登校促進につながったケースが複数見られた。7年度は新たにホットルーム専用の場所を確保し、生活指導部を中心とした学校全体での運営を進める。

3、学校行事について

児童、保護者、地域全般に渡って高評価である。児童の「学校行事には達成感がある」項目は昨年度より11%上昇している。キッズフェスタや運動会など、学校全体で試行錯誤し、創意工夫して努力したことに、児童が納得して取り組んだ結果と言える。学校行事は自己実現のよい機会となる。そのことを念頭に置いて、児童自らが創り上げていく気持ちをもたせ、行事の内容や演目などについては、児童の声がより多く反映されるように創造していく。

4、キャリア教育について

児童アンケートの肯定的評価は、自分事として考える2項目については大きく上昇している。本年度、校内研究として総合的な学習の時間と生活科の授業で、キャリア教育を意識した授業づくりを行った。特に6年生では保護者によるゲストティーチャーから話を聞く機会を設定するなど、生き方を見つめ直す機会を得て取り組んだ成果が表れている。次年度も継続して総合的な学習の時間と生活科で児童主体の課題設定を目標に校内研究に取り組む。

5、教職員について

近年継続して児童、保護者共に高評価を得ている。「相談のしやすさ」については、どちらも約7割台である。近年の課題であるが、「相談しにくい」ということでもなく、教員を気遣う意見も多くいただいた。7年度に教科担任制を進めるに重点の一つに、チームとして学年の児童を見守っていくことが挙げられる。いつでも誰にでも相談できる風土を創り上げていく。

6、学校生活全般について

児童アンケート「学校生活は楽しい」86.8%、保護者アンケート「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」87.5%の結果であった。学校は楽しいことばかりではなく、人ととの関りの中で

はうまくいかないことも起こる。また学習に前向きに取り組むことができない時期もある。「笑顔と元気と優しさあふれる学校」を共通目標に、9割前後の肯定的評価を維持していきたい。

7、学校からの情報提供について

近年の取組により、おおむね肯定的評価9割前後の安定した支持を得ている。学校だより、ホームページ、スクールでの発信等の改善の成果である。継続する。

8、学校運営について

「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」項目の保護者の肯定的評価は若干低くなった。それでも86%の支持を得たことは全教職員の励みとなる。今年度教職員の働き方改革についての改善方策は示してきたが、児童、教職員、保護者・地域が協力して「笑顔と元気と優しさがあふれる学校」していく目標については近年一貫して力を注いできた。校長は「地域の学校」の責任者として、保護者と地域の声に真摯に耳を傾ける姿勢を堅持していく。

9、学校と家庭の連携について

学校公開への参加については9割を超える。学校での教育活動を見て知っていただくよい機会と捉えて、いつもの授業、いつもの児童の姿を公開していく。全国的にPTA活動のあり方を見直す機運が高まる中、本校のにこプロ(PTA)活動はその先鞭をつけた形で改革を図ってきた。行事受付のお手伝いなど、活動への主体的な参加協力は学校にとっても大変有難いことであり、今後も持続可能な活動を目標として、学校、家庭、双方とて有意義な活動となることを期待している。

10、地域との連携について

安定した肯定的評価を得ている。二子玉川にある公立小学校として、地域は子どもたちをとても大切にしてくれている。商店街見学など、協力を得た授業が実施できている。地域の大きな行事である「花みず木フェスティバル」や「大山みちフェスティバル」には、教職員が自主的に参加している。持続可能な地域との連携として今後も友好な関係を継続していく。

11、学校の安全性全般について

学校の安全性全般に対する保護者アンケートは3項目とも肯定的評価を得ているが、安心安全なくして学校教育は成立しない。避難訓練に臨む児童の姿はいつも真剣である。避難所運営委員会を軸とした防災訓練等の活動も、毎回テーマをもって定期的に実施している。地域と連携して子どもたちの安全を守るために積極的な姿勢を今後も継続する。

12、学校経営方針について

「ウェルビーイングの向上」はより身近に意識できるものとして「笑顔と元気と優しさがあふれる学校」を目指してきた。児童、保護者、地域ともに浸透してきている。今後もさらに分かりやすく理解を深めてもらえるように発信し、児童、保護者、地域の声にもしっかりと耳を傾けて、対応や支援を行っていく。

1 3、学校生活の充実について

「あいさつや返事をすることを意識している」について児童は90%を超える肯定的評価であった。しかし保護者は71%とそう思っていない意見もある。保護者会等で意見聴取していきたい。児童アンケート「4つの約束」の肯定的評価は72%だが、同じ意識をもって過ごすためにも取組目標を明確にして意識を高めていくことが課題である。

1 4、地域運営学校の取り組みについて

「クリーンタウン作戦」（地域清掃活動）など、二子玉川に関わる地域、企業と連携した取組は、保護者の肯定的評価が9割を超える高評価を得ていることは、大きな成果と言える。商店街や地元企業との連携も盛んな地域である。キャリア教育との関連も考慮し、子どもたちが自分の学校や地域に愛着をもつことができる教育活動の実践に努めていく。

1 5、特色ある教育活動について

「地域の特色を生かした学習の展開」の項目は、保護者、地域ともに93%を超える。活動の一つとして、多摩川の自然を生かした東京都の愛鳥モデル校として長年活動してきた。本年度の1年生の親子探鳥会には、児童の半数を超える保護者の参加を得た。本校の特色ある大切な活動として、本年度は児童がより主体的に探究的に活動できるように工夫改善していく予定である。